＜能勢町教育委員会学校教育総務課＞

能勢町立能勢ささゆり学園（義務教育学校）における防災学習の取組について

1．背景

〇町に関すること

能勢町は、大阪府の最北端に位置しており、面積は約 100 ㎢、人口は約 9000 人、自然豊かな悠久の歴史をもつ魅力的な里山都市である。京都、神戸、大阪市内から自動車を使用して1時間程度で移動ができる立地にあり、道の駅、カフェ、農業体験施設、キャンプ場などが点在。休日には、自然を求めて能勢を訪れる観光客が増加している。

町内の約8割を森林が占めているが、高齢化や人口の減少に伴って、放置された森林の増加が問題となっている。また、近年の異常気象により、町内においても災害が発生している。平成 30 年の西日本豪雨では、台風7号や梅雨前線の影響により、能勢町においても降り始めからの総雨量が 498.5 ミリを観測し、増水による護岸の崩壊や道路の崩落等、大きな被害を受けた。その際には、町内全域が土砂災害警戒区域となり、全世帯に避難勧告、避難指示が出された。さらに、同年9月の台風 21 号暴風でも、最大1時間降雨量 69.0 ミリを観測し、土砂災害等の被害を受けた。平時からの備えの重要性を感じさせられた2つの災害であった。

〇教育に関すること

平成 28 年度に6小学校2中学校を再編整備し、能勢小学校・能勢中学校（施設一体型）を開校した。さらに、令和4年度には、その小・中学校を義務教育学校へと移行し、現在3年目を迎えている。平成 28 年の再編整備以降、前期課程（1～6年）では、昔あそび・七草探し・米作りなど地域との交流が盛んに行われてきた。一方で、後期課程（7～9年生）における「地域との連携」が課題となっていた。また、上記の2つの災害のときには、避難所で生活した経験のある生徒もいる。そのようなことをきっかけに令和4年度より、「防災」をテーマとした取組を開始することとした。

2．取組の実施状況

〇取組のねらい

・防災についての学習を通じて防災に関する知見を深めるとともに、保護者、地域の人々とともに誰一人置き去りにしない安心・安全な地域社会のありようについて考える。

・子ども同士や地域の方々との連携を通して、協力することや自主性、積極性、社会性の向上を図る。

・防災を中心として、広く人権感覚を養い、持続可能な社会づくりについて考えを深める。

〇令和4年度の取組（主な取組の概要）

講義◆内容;「能勢町の防災対策や被害の想定等について」
講師:能勢町役場自治防災担当課　職員

講義◆内容;「災害を想定したシミュレーション・ワークショップなど」
講師:防災教育学会

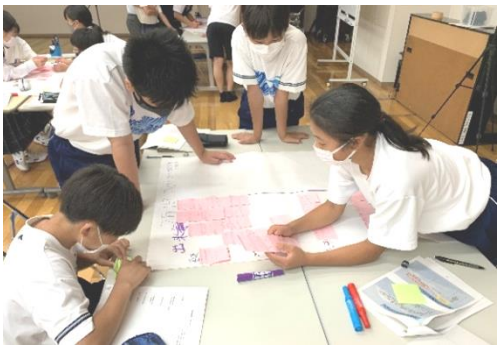
実習◆内容;「避難所の設営・避難所運営」
参加者:保護者・地域の方・児童生徒・教職員

実習◆内容;「防災食体験」　…大阪府広域防災拠点から提供されたアルファ化米を使用
参加者:地域学校協働本部・教職員

※新型コロナウィルス感染症の影響により、体育館での宿泊は行わず、1日の実習のみの実施。

体育館にて避難所の設営

避難所に避難する児童を誘導



防災・減災の方法を話し合う

〇令和5年度（主な取組の概要）

見学◆内容；阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」
場所：神戸市

講義◆内容；「能勢町の防災対策や被害の想定等について」
講師：能勢町役場自治防災担当課　職員

実習◆内容；「防災合宿」
参加者：地域学校協働本部・地域おこし協力隊・教職員等

火おこしに挑戦

町職員から土嚢づくりを学ぶ

薪割り体験

１人１張りのテントに宿泊

地域の方から炊き出しを学ぶ

3．展望

地域学校協働本部やPTA、町職員等の参画のもと、後期課程の課題であった「地域との連携」を一歩前に進めることができたと考える。また、子どもたちと地域の方々との繋がりを広げ深めるとともに、一緒に防災について考え、今後の生活に活かしていくことにつながった。今後も、学校が地域と繋がり、誰一人置き去りにしない地域社会の実現に向けた意識の向上を図っていきたい。

〈問合せ先〉

能勢町教育委員会　学校教育総務課　学校指導担当　　電話：072-734-2693